

8の字結びの基本

きれいな8の字結びの方法

文・写真：freefan 編集部

監修：菅野 富寿

ロープクライミングをする人なら、ほとんどの人が行なう“8の字結び”。クライミングにおいて直接命に関わるもっとも重要な基本的技術のひとつです。しかし、一度結べるようになってしまうと、あらためて結び方やその意味について考え直す機会は少ないかもしれません。自分が日ごろ結んでいる8の字結び、本当に自分の命を100%安心して預けられますか？今の方法がベストな結び方でしょうか？今さらといわず基本から見直してみましょう。



8の字結びはテンションしたときには、結び目がタテになることを知ることが大切

1. 結び位置を決める



8の字結びに必要なロープの長さは、約130センチ程度。何度か試して、ちょうどよい長さを覚えておこう。

2. 8の字をつくる



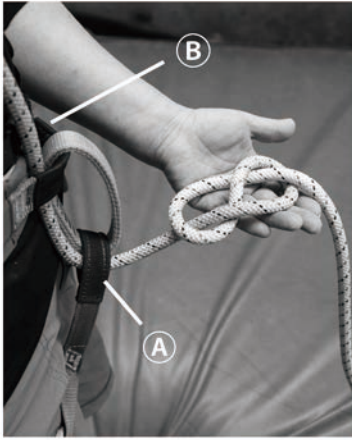
STEP1で決めた結び位置を

- ①左手の親指と人差し指つまむように持ち、
- ②右手でロープの末端側（短い方）を持ち、左回りにテニスボール程の大きさの輪を作り、
- ③写真のように重ねて指で押さえる。
- ④末端側ロープがメインロープの後ろを通り、矢印のように輪の中に通すと8の字ができあがる。8の字の大きさは各隙間にロープが1本通せるぐらいの大きさが適当。

【注意点】

ロープに余計なキンク（ねじれ）が生じないようにすることが大切。

※ロープの曲げ目をひねって8の字を作る人がいるが、このやり方はロープにキンクが生じてしまうのでNG。



3 2で作った8の字から出るロープを、ハーネスのタイインポイント①、②2ヶ所にを通し、結び目を根元付近までもっていく。



4 次にロープの末端を「あ」の部分の左側に差し込んで、ロープを引く。
※欄外注も参照



5 そのまま元の8の字の上を添わずように通して「い」の部分に左にカーブさせ、2重の8の字を作っていく。



6 ふたたび「う」のところをカーブするときもロープはもとの8の字の上側を沿わせる。



7 最後に「い」の側に通すときは、もとの8の字の左側に通す。



8 ロープの末端を8の字の輪から外に出したら、8の字からでている4本のロープを、1本ずつ交互に引いて締めこむようにする。(※上側の2本だけを引いて締めこむのでは不十分)

結びえ終えたらビレイヤーと、
①ハーネスの折り返し
②結び目
③ビレイデバイスのセット
を互いに指差し確認しましょう！

【仕上げの止め結び】

8の字結びは、きちんとキレイに結べていれば、単体でも信頼性の高い結びめですが、仕上げにロープ末端側を「止め結び」をすることを推奨しています(コンペ参加者は国際ルールにより、止め結びが義務付けられています)。方法は左図のようにメインのロープに8の字結びから出たロープの末端を自分から見て外側から2重に巻き、3重目を下から通して、最後に絞るように締め上げて、完成。この時、ロープ末端が12~13cm(ひと握り半)出しておく長さが適当です。

※もし、手順4で「あ」の右側にロープを差し込んだ場合、8の字の下側をなぞるように結び、最後は「い」の部分の右側からロープを出せばいい。左利きの人や、最初の8の字を裏返しで結ぶ場合も、これらのパターンを理解すればきれいに結べる。